

(再評価)

資料 1 — ①  
令和 7 年度 第 2 回  
利根川水系河川整備計画  
フォローアップ委員会

利根川  
総合水系環境整備事業  
(利根川・江戸川環境整備)

令和 7 年 11 月 4 日  
国土交通省 関東地方整備局

# 目 次

1. はじめに	1
2. 総合水系環境整備事業の事業評価に係る運用の変更について	2
3. 流域の社会情勢の変化	3
4. 事業の進捗状況と見込み等	9
5. 事業の投資効果	19
6. コスト縮減等	25
7. 関連自治体等の意見	27
8. 今後の対応方針(原案)	28

# 1. はじめに

## 今回事業評価を実施する理由

- 事業費・事業期間を見直し、事業計画を変更するため
- 前回評価(令和2年度)以降、5年が経過したため

※「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」の第3 1(5)「社会情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業」に該当。

## 【前回再評価(令和2年度)からの主な変化】

### ■総便益の変化

- CVM調査実施によるWTP(支払意思額)の変化、受益世帯数の変化
- 現在価値化基準年の違いによる変化
- 個別完了箇所評価を実施した箇所は費用便益分析の対象外となったことによる変化※

### ■総費用の変化

- 自然再生事業のうち、利根川下流自然再生の事業費見直しによる変化
- 現在価値化基準年の違いによる変化
- 個別完了箇所評価を実施した箇所は費用便益分析の対象外となったことによる変化※

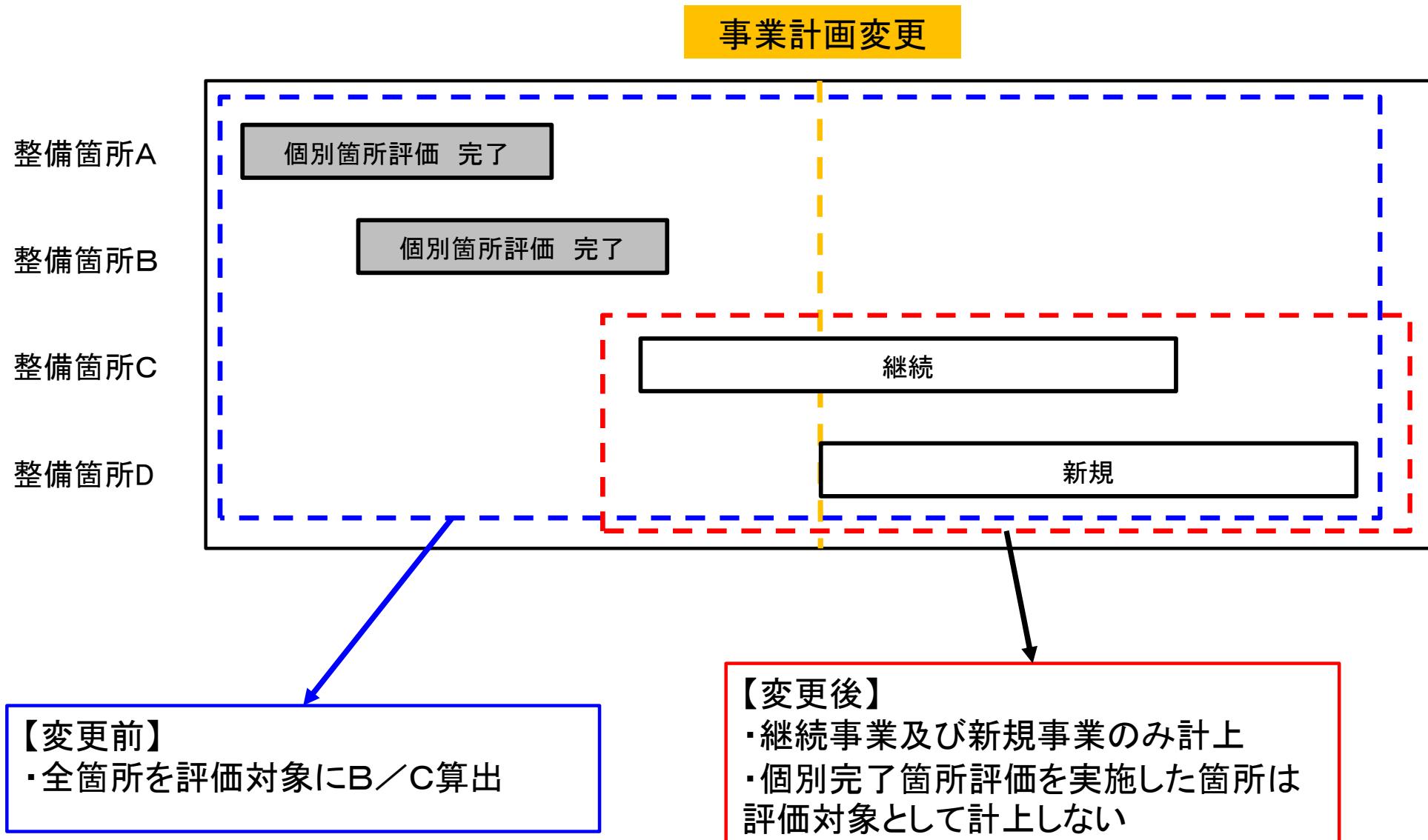
### ■B/Cの変化

- 上記の要因によりB/Cが変化

※総合水系環境整備事業では、令和4年度に実施する事業評価から、事業計画の変更により当該事業計画外の整備内容で個別完了箇所評価を実施した箇所については、評価対象として計上しないものとしている。

## 2. 総合水系環境整備事業の事業評価に係る運用の変更について

総合水系環境整備事業では、令和4年度に実施する事業評価から、事業計画の変更により当該事業計画外の整備内容で個別完了箇所の評価を実施した箇所については、評価対象として計上しないものとしている。

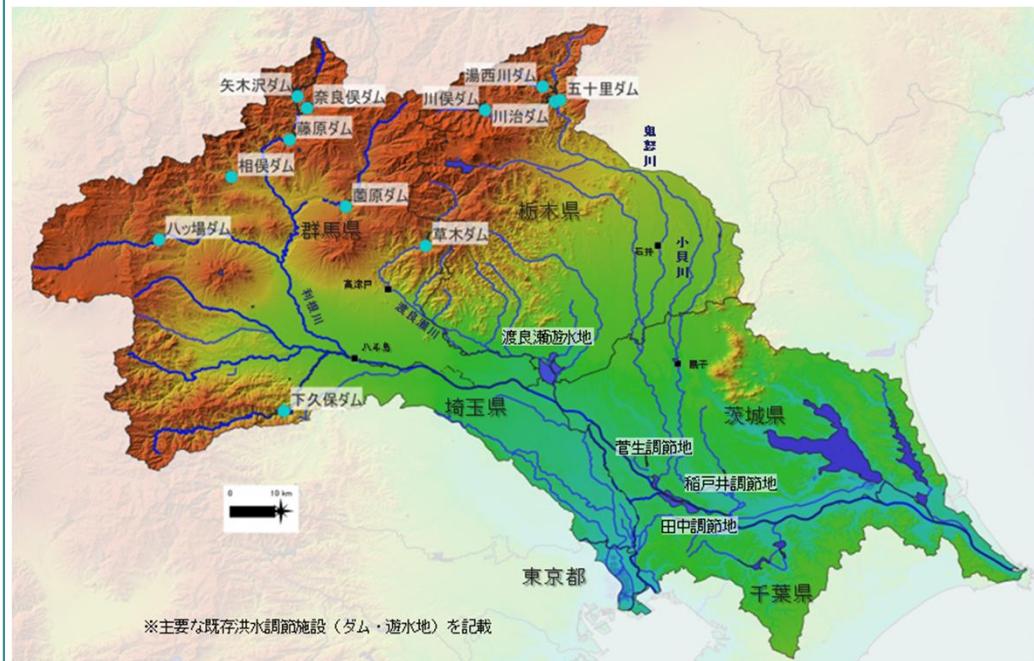


### 3. 流域の社会情勢の変化

#### 流域の概要

- 利根川は幹川流路延長322km、流域面積16,840km<sup>2</sup>の一級河川であり、その流域内に茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県及び東京都の1都5県(93市3区47町9村)と約1,309万人の人口を抱えており、全国で最も流域内市区町村・人口が多い水系である。
- 首都圏の社会・経済活動に必要な都市用水や農業用水を供給しており、首都圏さらには日本の政治・経済・文化を支える重要な河川である。

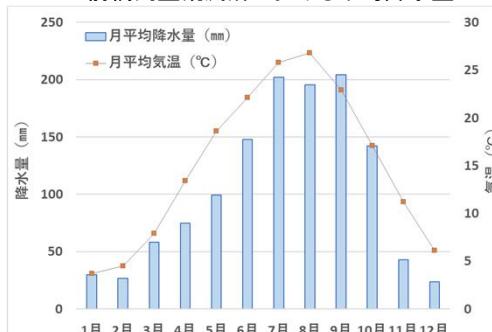
流域図



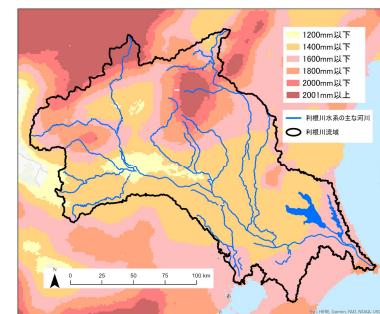
降雨特性

- 利根川流域の年平均降水量は1,300mm程度であり、全国平均1,700mmと比較して、少雨傾向である。
- 降水量の季別分布は一般に夏季に多く冬季は少ないが、利根川上流域の山岳地帯では降雪が多い。
- 群馬県や栃木県の山沿い地方では7~8月にかけて雷雨が多く発生する。

前橋雨量観測所における平均降水量



関東における過去30年年平均降水量

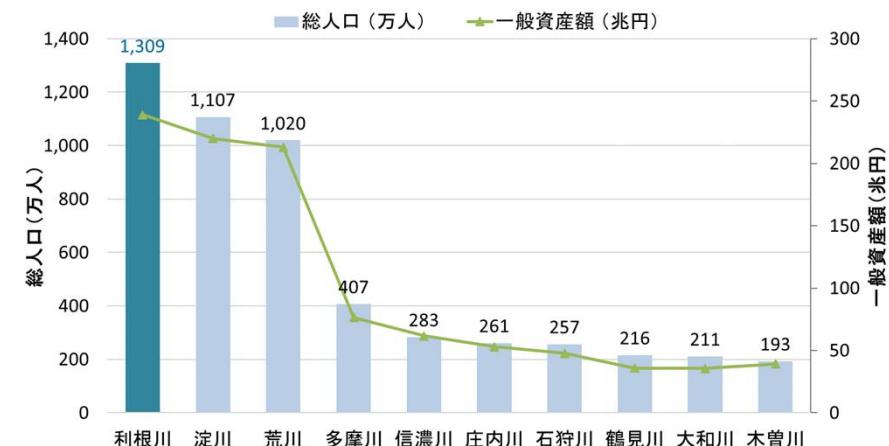


流域及び氾濫域の諸元

- 利根川水系は全国の中で、流域面積、流域内人口、流域内一般資産額などが最大の水系である。

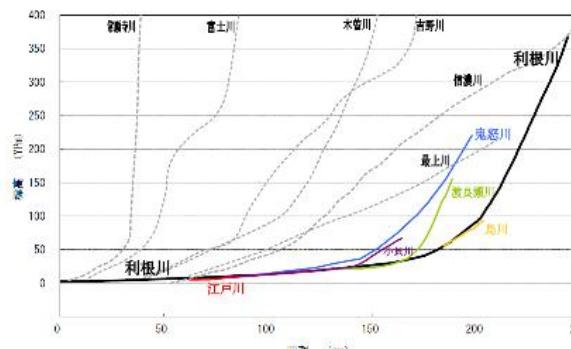
- 流域面積: 16,840km<sup>2</sup>
- 幹川流路延長: 322km

- 流域内市区町村人口\*: 約1,309万人
- 流域内市区町村数: 93市3区47町9村
- 流域内一般資産額: 約239兆円
- 想定氾濫区域内人口\*: 約849万人
- 想定氾濫区域内一般資産額: 約153兆円



河床勾配

- 河床勾配に関しては、利根川は1/500~1/9,000、渡良瀬川は1/150~1/4,000、鬼怒川は1/200~1/2,000、小貝川は1/500~1/7,000程度。
- 中・下流部の洪積台地では、埼玉県幸手市、久喜市付近が最も低く、周辺部に向かって高くなる盆地状の地形を呈しており、それより下流の勾配は比較的緩くなっている。



# 3. 流域の社会情勢の変化

## 3.1. 地域の協力体制・関連事業との整合性(1／2)

### 【関東エコロジカル・ネットワーク】

・関東地域の魅力的な地域づくりのために、多様な主体の協働・連携により、コウノトリ・トキを指標（シンボル）とした地域振興・経済活性化による取組と併せ、河川及び周辺地域の水辺環境等の保全・再生に取り組み、水と緑が豊かなエコロジカル・ネットワーク形成（関東エコロジカル・ネットワーク）と連携した整備を進めています。

### 【利根川下流域エリア：利根川下流域エコネット・地域づくり推進協議会】

・利根川下流は、広大なヨシ原や湿地が広がり、コウノトリ等の希少野生生物や、ヤマトシジミ等の多様な動植物が繁殖する場として機能しています。これら生き物と共に共生する魅力的な地域づくりを実現することを目的として、2025年3月27日に設立されました。  
・本協議会の活動により、利根川下流域における賑わいの創出、生物多様性の減少傾向の回復、魅力ある地域づくりの融合を図る広域連携モデルの形成など、多様な生き物と共に共生する魅力的な地域づくりを実現することを目的としています。

### 【江戸川・利根川・利根運河地域エリア：自然と人を育む地域づくり推進協議会】

・多様な主体が協働・連携し、エリア内の自然や文化遺産を生かし、河川等の水辺環境の保全・再生とあわせて、賑わいのある地域振興・経済活性化に取り組み、エコロジカル・ネットワーク形成により、多様な生きものと共に共生する魅力的な地域づくりを目的とする「自然と人を育む地域づくり推進協議会」と連携した整備を進めています。



関東エコロジカル・ネットワーク形成（目標）



### 3. 流域の社会情勢の変化

#### 3.1. 地域の協力体制・関連事業との整合性(2/2)

##### 【外来生物の対応】

- 利根運河周辺では、市民参加による特定外来生物アレチウリ・ミズヒマワリ・オオキンケイギクの除去活動を行っている。
- 特定外来生物アレチウリの分布調査を実施し、効率的な活動計画や効果把握に役立っている。

##### 【地域振興・環境学習】

- 渡良瀬遊水地周辺、利根運河周辺、利根川下流域において、コウノトリの生息環境整備に加えて地域振興・経済活性化に向けた取組や地域間交流を含めた環境学習等を行っている。



■アレチウリ除去活動(R4)



■オオキンケイギク除去活動(R4)



■ミズヒマワリ除去活動(R6)



■環境に優しい農業で生産した商品の生産



■水田調査体験



■中学校と連携した環境学習  
(ヨシ焼き)

# 3. 流域の社会情勢の変化

## 3.2. 河川環境等をとりまく状況(1／2)

### 【自然環境】

- 上流部は、礫河原が分布し、カワラサイコ、カワラバッタ、コアジサシ等が生育・生息・繁殖し、河岸にはオオヨシキリ、セツカ等が生息・繁殖するヨシ群落・オギ群落が繁茂し、瀬と淵には、アユ、ウグイ等、ワンド・たまりには、ジュズカケハゼ、ムサシノジュズカケハゼ等が生息・繁殖している。
- 中上流部は、河岸にヨシ群落・オギ群落が繁茂し、オオヨシキリ、カヤネズミ等が生息・繁殖、河辺性の樹林や自然裸地、ワンド・たまりから成る水際環境には、ヤガミスゲ、ギンブナ、オイカワ等が生育・生息・繁殖している。
- 中下流部は、ヨシ群落が繁茂し、オオセツカ、コジュリン等が生息・繁殖している。
- 下流部は、ヨシ群落が繁茂し、ヒヌマイトンボ、キイロホソゴミムシ等が生息・繁殖し、干潟にはエドハゼやヤマトシジミ等が生息・繁殖している。
- 江戸川は、ヨシ群落・オギ群落が繁茂し、オオヨシキリ、セツカ等が生息・繁殖し、干潟や河岸にはクロベンケイガニ等が生息・繁殖している。
- 烏川・神流川は、連続する瀬・淵にオイカワ等が生息・繁殖し、ワンド・たまりではトウキヨウダルマガエル等が生息・繁殖し、礫河原ではカワラバッタ等が生息・繁殖している。

### 【景観】

利根川・江戸川は、雄大な流れの背景に、遠方に広がる山並みや歴史ある町並み等と織り成す、四季の変化に富んだ景観となっています。

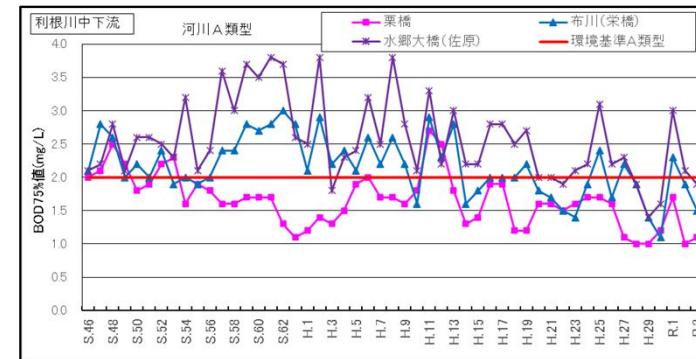
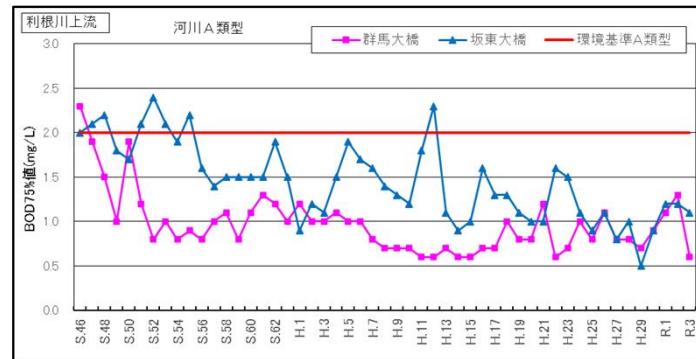


### 3. 流域の社会情勢の変化

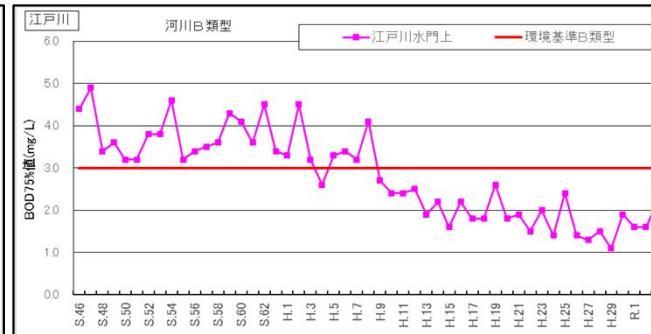
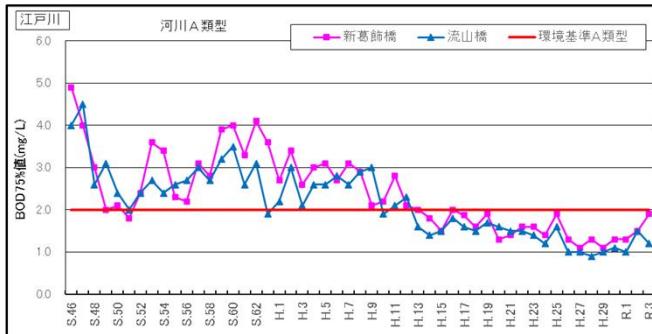
#### 3.2. 河川環境等をとりまく状況(2/2)

##### 【水質】

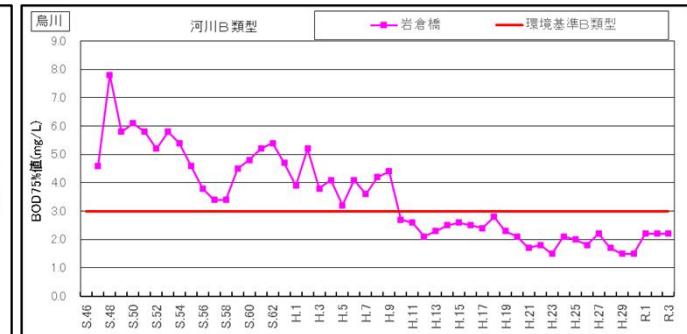
- 利根川の水質は、利根川本川上流部では環境基準値を達成しており、本川中流部から下流部においても改善傾向にある。
- 利根川本川では、上流部の環境基準点である河川A類型に指定されている群馬大橋、坂東大橋は、近年は環境基準2mg/L以下を達成している。中下流部の環境基準点である河川A類型に指定されている栗橋、布川(栄橋)及び水郷大橋では改善傾向が見られるが、環境基準2mg/Lの前後で推移している。
- 江戸川では、河川A類型に指定されている新葛飾橋、流山橋では、近年は環境基準2mg/L以下を達成しており、河川B類型に指定されている江戸川水門(上)地点では、環境基準3mg/L以下を達成している。
- 鳥川は、河川B類型に指定されている岩倉橋では環境基準3mg/Lを達成しており、神流川は河川A類型に指定されている藤武橋、神流川橋では環境基準2mg/Lを達成している。



利根川 BOD75%値の経年変化



江戸川 BOD75%値の経年変化



鳥川 BOD75%値の経年変化

# 3. 流域の社会情勢の変化

## 3.3. 河川の利用状況

- ・利根川、江戸川、烏川・神流川では、年間で1000万人を超える人々に利用されており、散策、スポーツ等に利用されている。
- ・首都圏近郊の良好な自然環境を有する空間、広大なオープンスペースとなっていることから、河川整備にあたっては、河川利用にも配慮する必要がある。

利用状況	
河川別利用者数	
河川名	利用者数(千人)
利根川	2,712
江戸川	5,797
烏川・神流川	2,163
合計	10,671

利用形態別割合

- スポーツ 27%
- 釣り 4%
- 水遊び 2%
- 散策等 66%

(令和元年度 河川水辺の国勢調査より作成)  
※表示桁数の関係で合計値が一致しない場合があります。

### 上流部の利用状況

- 赤岩渡船・葛和田の渡しでは、現在も道のない主要道として渡し船が地域の交通手段として利用されている。

赤岩渡船・葛和田の渡し

### 中上流部の利用状況

- グライダー滑空場、グラウンドなどが整備され、スポーツ、イベント等の利用が行われている。

グラウンド利用

### 中下流部の利用状況

- 公園やグラウンドなどが整備され散策やスポーツ等の利用が行われるとともに、佐原、潮来等を中心とする水郷地帯では、現在でも江戸への物流を支えた利根川の舟運を活用した観光やお祭り等が行われている。

香取神宮「式年神幸祭」

### 下流部の利用状況

- 一部には公園やグラウンド等が見られるが、ヨシやオギの草地が広がっており、散策や護岸からの釣り、水遊びなどの利用が見られる。

釣り

### 江戸川の利用状況

- 河川敷は、都市部の広大なオープンスペースとして、緑地公園・グラウンドが整備され、散策・スポーツ等のレクリエーションの場、数少ない自然の残るスポットとして多くの人に利用されている。

グラウンド利用

### 烏川・神流川の利用状況

- 広い河川敷が存在し、高水敷にはグラウンドや公園が整備され、散策等の利用者が多く見られる。

散策等

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (1) 事業の目的と計画の概要

**【水環境】**首都圏の都市用水として安全な水を提供するとともに、沿川地域の水辺利用や水辺環境の改善のために、関係機関や地域住民と連携し既設浄化施設の機能向上、浄化用水の導入、植生浄化などの水質改善対策を実施しました。

**【自然再生】**貴重な生物の生息生育空間である湿地(ヨシ原)・干潟の保全と再生に取り組むとともに、河川の連続性の確保のために、魚類の遡上、降下環境の改善を実施します。

**【水辺整備】**沿川地方公共団体が立案する地域計画等との整合を図り、都市部において貴重な自然とのふれあいの場、憩いの場である水辺空間に誰もが安心してアクセスできるようにユニバーサルデザインに配慮した水辺整備を実施します。

### 【実施事業】

※赤字:前回評価(R2)からの変更点

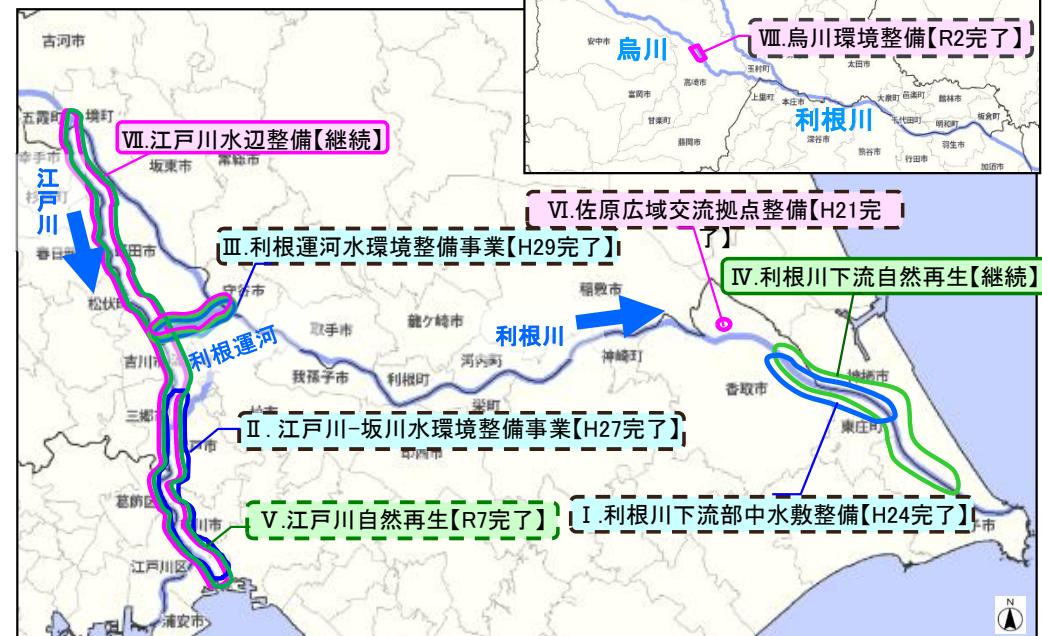
再評価評価単位	分野	個別事業名	箇所名（整備の内容）	事業期間	備考
利根川総合水系環境整備事業	水環境	I. 利根川下流部中水敷整備	高水敷掘削：9地区	H16～H24	完了評価済(H27)
		II. 江戸川-坂川水環境整備事業	(古ヶ崎地区水環境改善対策) 送泥管整備：700m/沈殿池整備：1箇所	H13～H23	完了評価済(H27)
			(坂川地区水環境改善対策) ポンプ整備：1基/河川横断管路：1箇所		
	自然再生	III. 利根運河水環境整備事業	底泥浚渫：5,800m <sup>3</sup> /ポンプ整備：1箇所	H20～H29	完了評価済(R2)
		IV. 利根川下流自然再生	高水敷掘削：5地区	H25～R8	継続事業
	水辺整備	V. 江戸川自然再生事業	(江戸川特定外来種対策検討) 外来種駆除等：9回	H19～R7	完了評価(今回)
			(江戸川下流部水辺環境創出対策) 湿地整備：9,700m <sup>2</sup> /消波施設整備：800m		
	VII. 江戸川水辺整備事業	(江戸川水閘門緊急魚道対策検討) 呼び水ポンプ整備：3箇所			
	VIII. 烏川環境整備	(利根運河環境整備) 魚道整備：3箇所			

### 【事業実施箇所位置図】

#### <烏川>



#### <利根川・江戸川>



凡例

- …水環境
- …自然再生
- …水辺整備

\*破線は完了評価済みを示す。

\*: 工事はH21年度に完了しているが、PFI事業による割賦払いのため事業期間はR6年度に完了している

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (2) 事業の進捗状況(継続事業)

### 1)【自然再生(利根川下流自然再生)】

#### 【利根川下流】

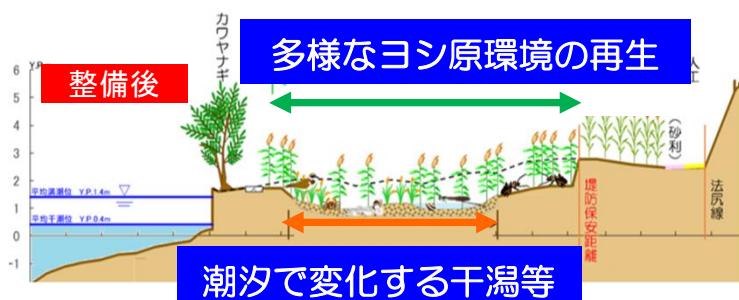
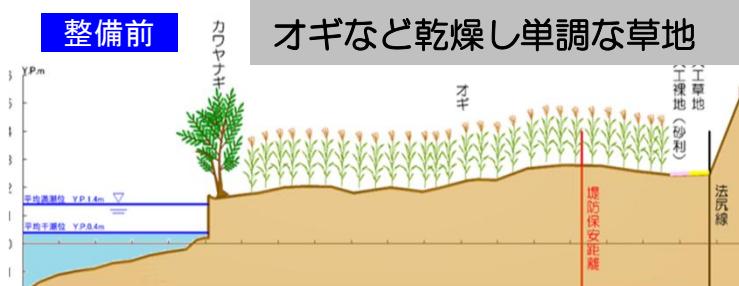
貴重な生物の生息生育空間である湿地(ヨシ原)・干潟の保全と再生に取り組み、河岸やワンド等の再生や、湿地環境の回復ため、生物多様性が確保できるよう高水敷掘削を行いました。

※赤字:前回評価(R2)からの変更点

分野	個別事業名	箇所名(整備の内容)	単位	数量			事業期間
				全体計画	R6年度末	残	
自然再生	IV.利根川下流自然再生	高水敷掘削	地区	5	5	0	H25～R8

#### 整備状況

#### IV.利根川下流自然再生



湿地環境(ヨシ原・干潟)の保全・再生、河岸やワンド等の再生により、利根川下流における生物多様性の確保が期待できます。

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (2) 事業の進捗状況(継続事業)

### 1)【自然再生(利根川下流自然再生)】事業費・事業期間の変更

- 工事内容精査及びコスト縮減により事業費が2,236百万円から2,133百万円(-103百万円)に減額となった。
- 川尻・矢田部地区における令和2年度の干潟整備において、施工時期がシラスウナギの遡上期間に影響することが懸念されたため、漁業関係者との調整を行った結果、モニタリング期間(3年)を含む事業期間を1年延伸する必要が生じました。

工種	地区名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
自然再生事業	川尻・矢田部地区	干潟・ヨシ原・ワンド水路整備			モニタリング（3カ年）					
		ヨシ原整備	施工時期の調整	干潟・ヨシ原・ワンド水路整備		モニタリング（3カ年）				
船木・椎柴地区				河岸・ヨシ原整備	モニタリング（3カ年）			モニタリング（3カ年）	事業期間の延伸	
				河岸・ヨシ原整備		モニタリング（3カ年）				



川尻・矢田部地区 施工箇所



漁業関係者との調整状況

凡例

- 初計画(整備)
- 変更計画(整備)

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (2) 事業の進捗状況(継続事業)

### 2)【水辺整備(江戸川水辺整備事業)】

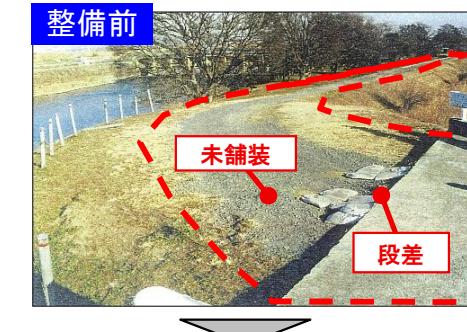
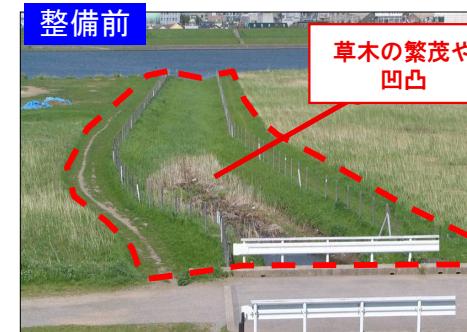
【江戸川・利根運河】 誰もが江戸川に行きやすく、安全に利用できる良好な水辺空間を形成するためスロープや護岸、水辺の樂校(水路・園路・木道等)の整備等を行っています。

※赤字:前回評価(R2)からの変更点

分野	個別事業名	箇所名(整備の内容)	単位	数量			事業期間
				全体計画	R6年度末	残	
水辺整備	VII.江戸川水辺整備事業	(利根川江戸川水辺プラザ)管理用通路等整備	m	1,826	(H12完了)	-	H7～R13
		(流頭部環境整備)管理用通路等整備	m	4,000	(H14完了)	-	
		(江戸川区水辺の樂校)園路等整備	m	440	(H19完了)	-	
		(江戸川航路浚渫)土砂浚渫	m <sup>3</sup>	28,300	(H20完了)	-	
		(江戸川環境整備)坂路・階段整備	箇所	68	40	28	
		(八潮環境整備)管理用通路等整備	m	120	(H13完了)	-	
		(三郷放水路環境整備)管理用通路等整備	m	1,900	(H15完了)	-	

#### 整備状況

#### VII.江戸川水辺整備事業



## 4. 事業の進捗状況と見込み等

### (2) 事業の進捗状況(継続事業)

#### 2)【水辺整備(江戸川水辺整備事業)】 事業期間の変更

計画箇所68箇所のうち28箇所において、沿川自治体及び地域住民、利用者との調整を行う必要があることから、設計施工、モニタリング期間として、事業期間を5年延伸する必要が生じました。

工種	平成17年度	～	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
水辺整備	坂路・階段整備			モニタリング(3ヵ年)							
				坂路・階段整備							
				(残28箇所)							

**事業期間の延伸**

モニタリング(3ヵ年)

凡例  
■ 当初計画(整備)  
■ 変更計画(整備)



整備箇所位置図



自治体、民間企業との現地調整状況の例

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):江戸川自然再生事業)【1/5】

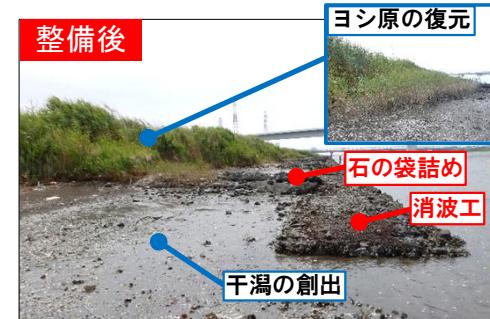
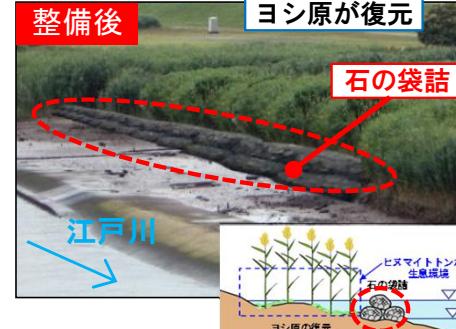
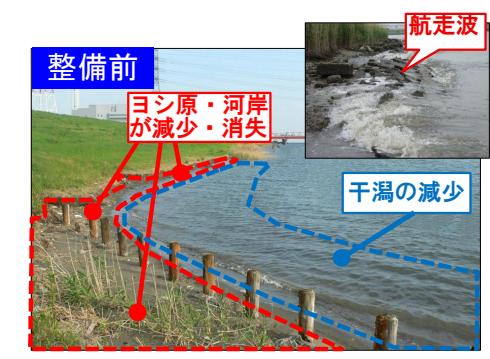
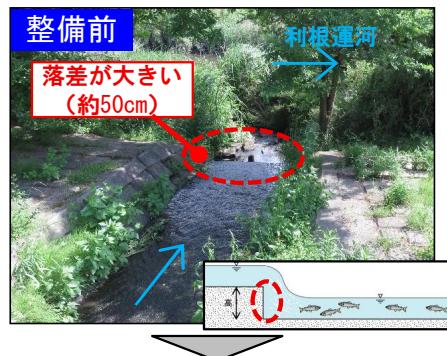
### 【自然再生】

江戸川自然再生事業: R7までに消波施設や魚道、湿地の整備が完了しました。

分野	個別事業名	箇所名（整備の内容）	単位	数量			事業期間
				全体計画	R6年度末	残	
自然再生	V.江戸川自然再生事業	(江戸川特定外来種対策検討)外来種駆除等	回	9	(H23完了)	-	H19～R7
		(江戸川下流部水辺環境創出対策)湿地整備	m <sup>2</sup>	9,700	(H24完了)	-	
		(江戸川下流部水辺環境創出対策)消波施設整備	m	800	(H27完了)	-	
		(江戸川水閘門緊急魚道対策検討)呼び水ポンプ整備	箇所	3	(H23完了)	-	
		(江戸川水閘門緊急魚道対策検討)簡易魚道整備	箇所	1	(H27完了)	-	
		(利根運河環境整備)魚道整備	箇所	3	(R2完了)	-	

### 整備状況

#### V.江戸川自然再生事業



魚道の設置により、魚類等が移動できるようになります。

石の袋詰を設置することにより、ヨシ原が復元・創出され、ヒヌマイトンボ（重要種）の生息環境が創出・拡大されます。

簡易魚道の設置により、魚類等が上下流へ移動できるようになります。

石の袋詰めや消波工を設置することで、ヨシ原や干渉が創出・復元されます。

# 4. 事業の進捗状況と見込み等

## (3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):江戸川自然再生事業)【2/5】

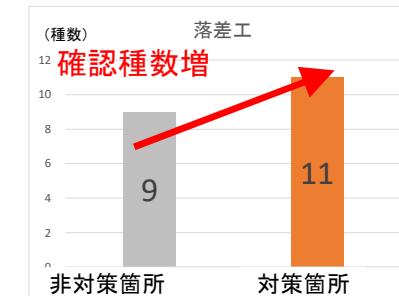
【目的】江戸川・利根運河における自然環境の保全・再生・創出

### ①費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

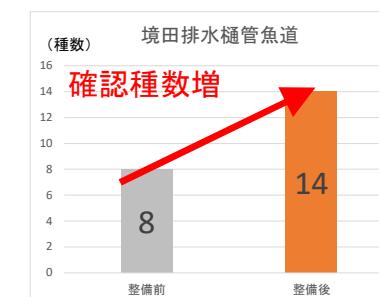
- ・江戸川自然再生事業は、令和2年度末に最後の整備箇所である城の越排水樋管魚道が完成し、令和3年度～令和5年度のモニタリングにより、事業効果を確認しました。立山排水樋管魚道については、接続する湿地(谷津)の消失により、事業箇所の施工を取り止めました。計画変更により、事業費が0.1億円の減額となり、令和7年度で事業完了となりました。

### ②事業効果の発現状況

- ・魚道整備済みの3箇所において、魚類等の確認種数が増加しました。



対策箇所と非対策箇所の魚類の確認種数



整備前後の魚類及び甲殻類の確認種数

### ●本調査で得られた地域住民の主な意見

- ・水際の環境を整備することで、人は水に親しみやすくなり、生物は多様化し、防災の面でも有効であると思う。
- ・開発ばかりして自然が減り環境が破壊されていく今、こういった取り組みに注力するのは大変有意義だと思う。今後も自然再生をどんどん行なってもらいたい。
- ・自然環境の中を散策できるようになればいいと思います。

出典:江戸川・利根運河の環境整備事業(自然再生)に関するアンケート調査(R7)

## 4. 事業の進捗状況と見込み等

### (3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):江戸川自然再生事業)【3/5】

#### ③事業実施による環境の変化

- ・事業の完了後、環境の変化に関する問題および指摘は特にありません。

#### ④社会経済情勢等の変化

- ・自然再生の取り組みの結果、河川内やその周辺において自然環境保全活動が活性化し、活動の更なる発展を望む地域の声が聞かれています。

##### ●谷津湿地保全の取組



- ・東京理科大サークルによる、魚道後背地の湿地保全活動の活性化
- ・上記湿地を有する東京理科大学敷地における環境保全活動や協力体制の拡大（R6年 理窓公園応援団の発足）

##### ●新たな自然環境保全に向けた動き

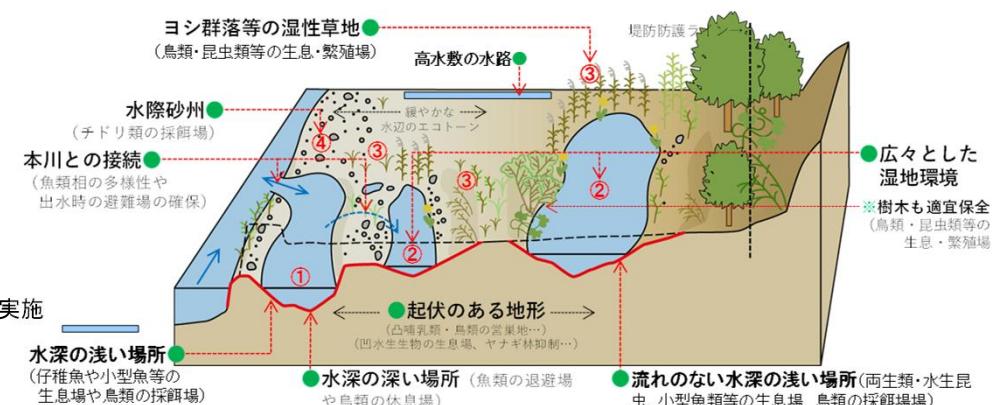


- ・魚道の後背地の一つである谷津の保全活動の実施



- ・江戸川での新たな保全活動に向けた合同観察

##### ●新たな自然再生の取り組みへの期待



- ・新たな自然再生整備に向けた検討を開始  
(治水と環境の調和のとれた江戸川中上流部の環境整備イメージ)

## ⑤本事業を通じて得られた知見

- ・魚道整備等は、多くの方々からの賛同を得るとともに、地域の自然環境保全意識の醸成が進み、更なる環境の保全・再生・創出への期待を高めていることが分かりました。

## 4. 事業の進捗状況と見込み等

### (3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):江戸川自然再生事業)【4/5】

#### ⑥費用対効果分析

項目	令和7年度完了箇所評価 (整備後: 今回評価)	令和2年度再評価 (整備中)	主な要因
B/C	57.3	42.2	
総便益 (B)	900億円	464億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的割引率(年4%)を用いて現在価値化を実施</li> <li>・WTPの増加 R2: <u>446円</u> R7: <u>506円</u></li> <li>・受益世帯数の増加 R2: <u>533,572世帯</u> R7: <u>647,877世帯</u></li> </ul> <p>※受益範囲(2km)は変更無し</p>
総費用 (C)	16億円 <現在価値化前: 8.5億円>	11億円 <現在価値化前: 10.5億円>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的割引率(年4%)及びデータを用いて現在価値化を実施</li> <li>・消費税を除く</li> <li>・令和7年度は、工事諸費を除く</li> </ul>
事業期間	平成19年度～令和7年度	平成19年度～令和7年度	
便益算定の 計算条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価時点: 令和7年度</li> <li>・評価期間: 整備期間+50年</li> <li>・世帯数データ: R7住民基本台帳</li> <li>・単価: 令和7年度CVM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価時点: 平成27年度</li> <li>・評価期間: 整備期間+50年</li> <li>・世帯数データ: H26住民基本台帳</li> <li>・単価: 平成27年度CVM</li> </ul>	

## 4. 事業の進捗状況と見込み等

### (3) 事業目的の達成状況(完了評価(今回):江戸川自然再生事業)【5/5】

#### ⑦まとめ

##### 1) 今後の事後評価及び改善措置の必要性

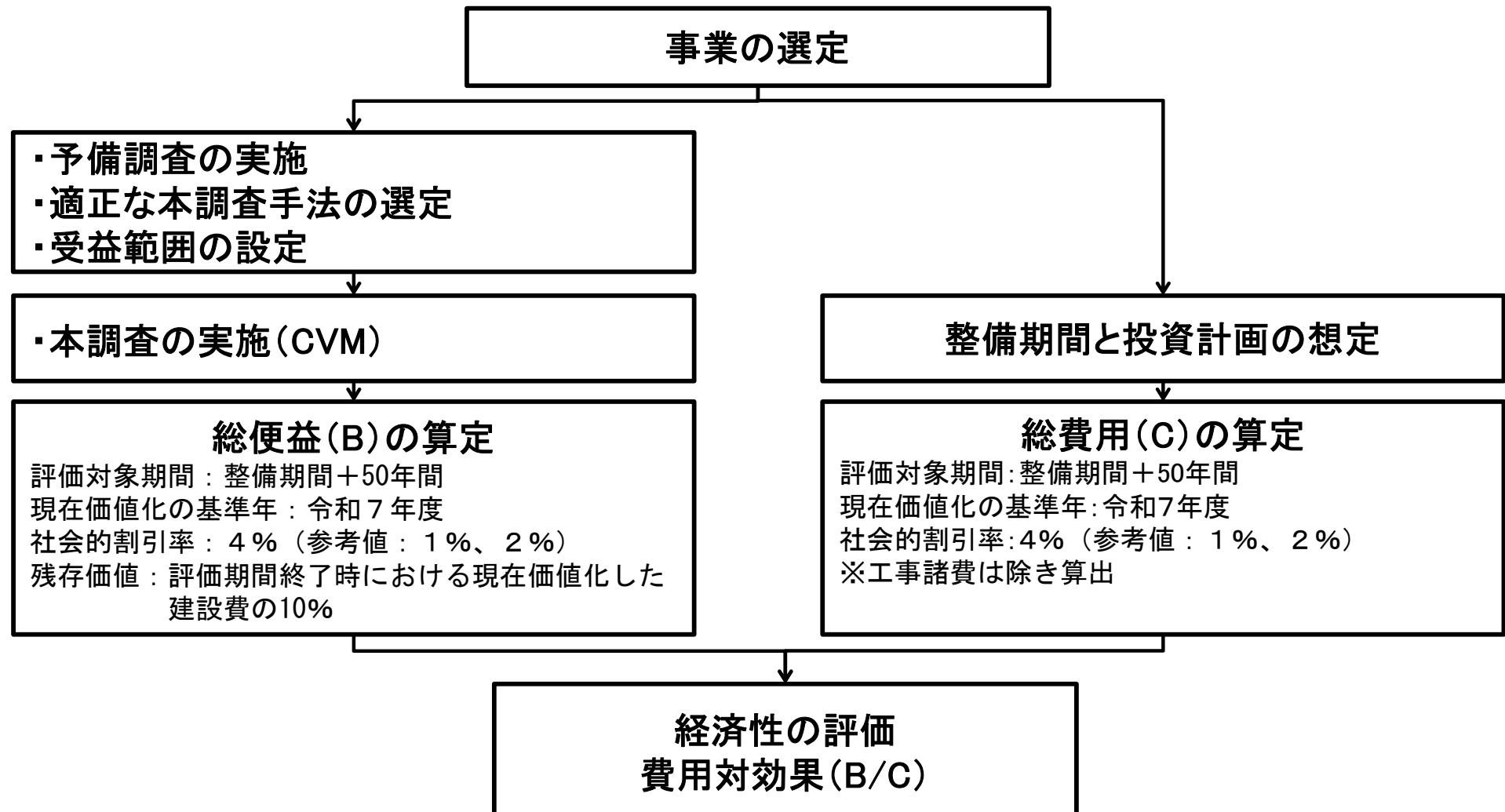
- 完了箇所では、魚道整備等により、魚類の確認種通の増加や地域の自然環境保全活動の活性化に繋がっていることから、事業効果の発現が十分確認されており、今後の事後評価および改善措置の必要性はないものと考えられます。

##### 2) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性

- 完了箇所評価の結果、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直し等の必要性はないものと考えられます。

## 5. 事業の投資効果

### (1) 費用対便益の算定方法

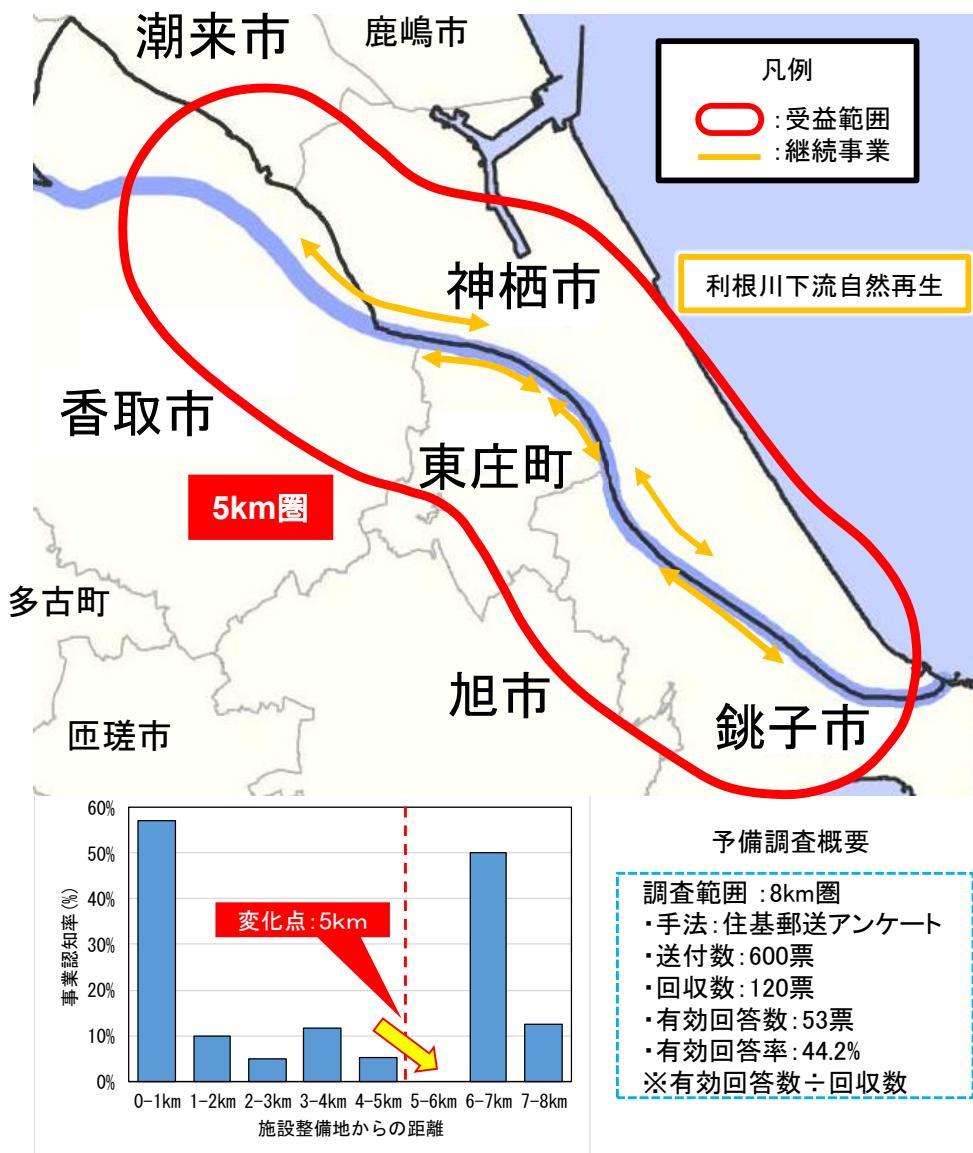


# 5. 事業の投資効果

## (2)費用便益分析(自然再生) IV.利根川下流自然再生

### (1)受益範囲の設定

・予備調査より、認知率の変化点(認知率が0%)がみられる5km圏を受益範囲として設定しました。



### (2)支払意思額(R7アンケート結果)

受益範囲		整備地区から5km圏
受益世帯数		69,111世帯 (R7.4住民基本台帳データ)
調査概要	調査方法	住基郵送アンケート
	回収数	734票
	有効回答数 (有効回答率)	345票 (47.0%)
支払意志額(WTP) 月・世帯当たり		451円

### (3)費用便益比

基準年		令和7年度
評価期間		整備期間+50年間
総費用(C)	①事業費	24億円
	②維持管理費	0.8億円
	③総費用	25億円
総便益(B)		102億円
費用便益比(B/C)		4.1 (社会的割引率1%) 6.8 (社会的割引率2%) 5.7

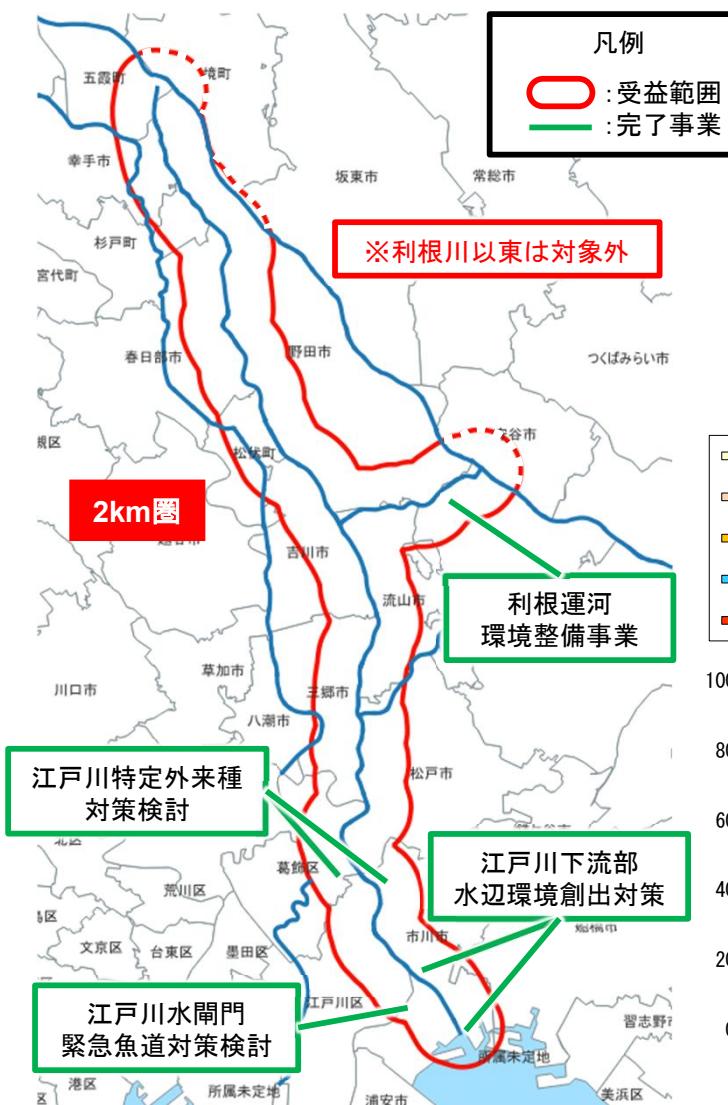
※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

# 5. 事業の投資効果

## (2)費用便益分析(自然再生) V.江戸川自然再生事業

### (1)受益範囲の設定

- 予備調査より、認知率の変化点(認知率が0%)がみられる2km圏を受益範囲として設定しました。

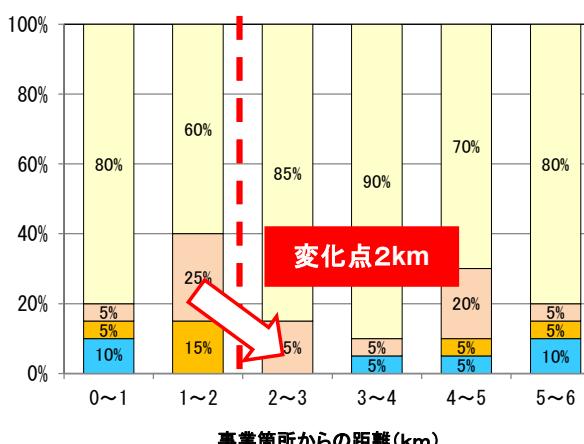


### 予備調査概要

- 調査範囲 : 6km圏
  - 手法: WEBアンケート
  - 回収数: 120票
  - 有効回答数: 79票
  - 有効回答率: 65.8%
- ※有効回答数 ÷ 回収数

【認知率】事業の認知者が  
2km圏に居住

- 取り組みも知らなかつたし、主な効果も今回初めて聞いた
- 名前は聞いたことがあるが、取り組みによる主な効果は今回初めてきいた
- 取り組みは知っているが、主な効果は今回初めてきいた
- 取り組みは知っているし、主な効果も少しあは知っていた
- 取り組みは知っているし、主な効果も知っていた



### (2)支払意思額(R7アンケート結果)

受益範囲	整備地区から2km圏
受益世帯数	647,877世帯 (R7住民基本台帳データ)
調査概要	WEBアンケート
	回収数 600票
	有効回答数 (有効回答率) 365票 (60.8%)
支払意志額(WTP) 月・世帯当たり	506円

### (3)費用便益比

基準年	令和7年度
評価期間	整備期間+50年間
総費用(C)	①事業費 15億円
	②維持管理費 0.4億円
	③総費用 16億円
総便益(B)	900億円
費用便益比(B/C)	57.3 (社会的割引率1%) 89.5 (社会的割引率2%) 75.6

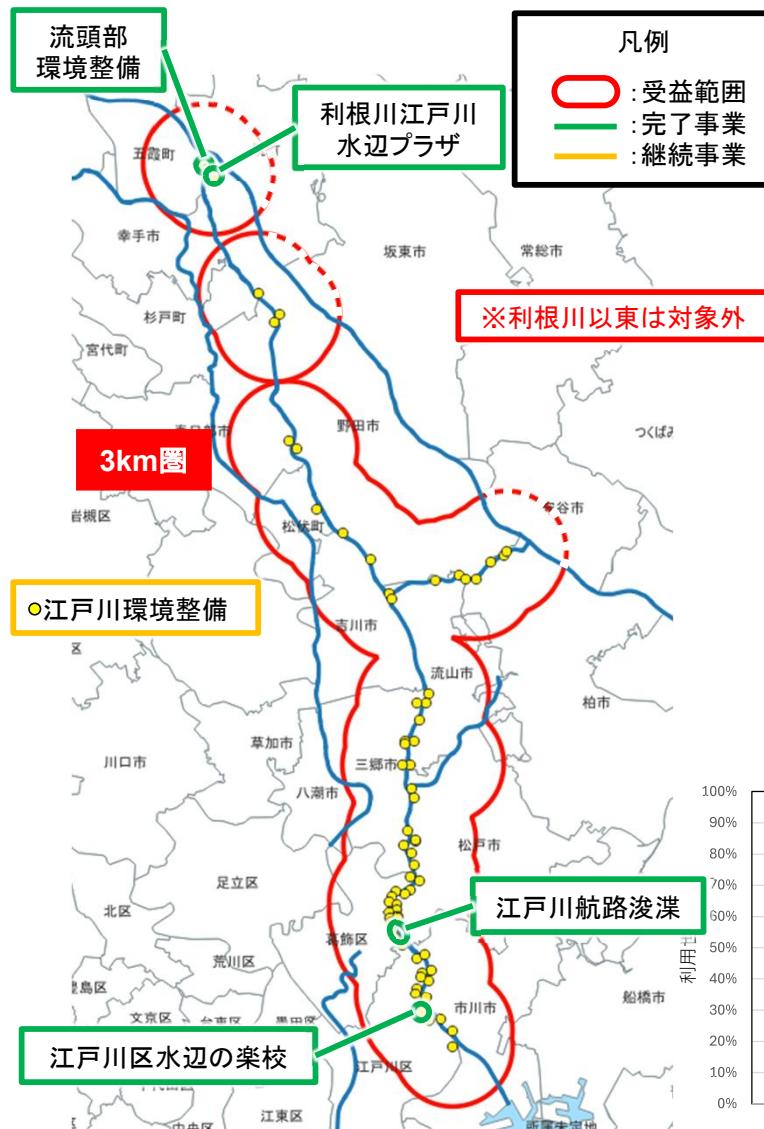
※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

## 5. 事業の投資効果

## (2) 費用便益分析(水辺整備) VII. 江戸川水辺整備事業

## (1) 受益範囲の設定

・予備調査より、利用率の変化点がみられる3km圏を受益範囲として設定しました。

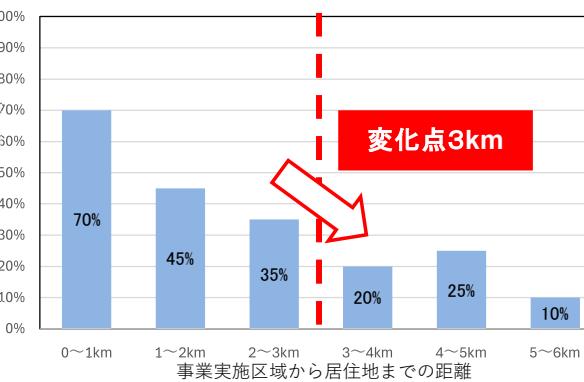


予備調査概要

- ・調査範囲 : 6km圏
  - ・手法 : WEBアンケート
  - ・回収数 : 120票
  - ・有効回答数 : 74票
  - ・有効回答率 : 61.7%

※有効回答数 ÷ 回収数

【利用率】数年に1回以上の事業地利用者が3km圏に居住



## (2) 支払意思額(R7アンケート結果)

受益範囲		整備地区から3km圏
受益世帯数		879,631世帯 (R7住民基本台帳データ)
調査概要	調査方法	WEBアンケート
	回収数	600票
	有効回答数 (有効回答率)	333票 (55.5%)
支払意志額(WTP) 月・世帯当たり		610円

### (3) 費用便益比

基準年		令和7年度
評価期間		整備期間+50年間
総費用 (C)	①事業費	138億円
	②維持管理費	43億円
	③総費用	181億円
総便益(B)		2,660億円
費用便益比(B/C)		14.7 (社会的割引率1%) 17.4 (社会的割引率2%) 16.5

※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

# 5. 事業の投資効果

## (3)費用便益分析(水系全体)

◆前回の事業再評価(令和2年)と今回の事業再評価(令和7年)における費用便益比(B/C)の差の要因は、以下のとおり。

- ・総便益(B)：完了評価済事業の削減による減少、現在価値化基準年の違いによる増加
- ・総費用(C)：継続事業の計画変更による減少、完了評価済事業の削減による減少、現在価値化基準年の違いによる増加

<計算条件>

基準年次	: 令和7年度※1
分析対象期間	: 整備期間+50年
便益の算定方法	: CVM(仮想市場評価法)
世帯数データ	: 令和7年住民基本台帳
対象事業	: 水環境 自然再生 利根川下流自然再生事業 江戸川自然再生事業 水辺整備 江戸川水辺整備事業

[参考: 前回評価(令和2年度)]

基準年次	: 平成27年度※3
分析対象期間	: 整備期間+50年
便益の算定方法	: CVM(仮想市場評価法)
世帯数データ	: 平成26年住民基本台帳、平成27年国勢調査
対象事業	: 水環境 利根川下流中水敷整備 江戸川・坂川水環境整備事業 利根運河水環境整備事業 自然再生 利根川下流自然再生事業 江戸川自然再生事業 水辺整備 佐原広域交流拠点整備 江戸川水辺整備事業 烏川環境整備事業

受益範囲の世帯数: 水環境 —

自然再生 71.7万世帯  
水辺整備 88.0万世帯

受益範囲の世帯数: 水環境 44.4万世帯

自然再生 57.8万世帯  
水辺整備 52.4万世帯

事業費 : 約 96億円(消費税・工事諸費込み)  
(約 82億円)(消費税込み・工事諸費抜き)

事業費 : 約 135億円(消費税・工事諸費込み)

総便益(B) : 約3,662億円(約4,985億円※2)

総便益(B) : 約1,913億円(約3,712億円※2)

総費用(C) : 約 222億円(約 126億円※2)

総費用(C) : 約 197億円(約 189億円※2)

費用便益比(B/C) : 16.5

費用便益比(B/C) : 9.7

(参考比較値) : 21.3(社会的割引率:1%)

: 19.4(社会的割引率:2%)

※1: 令和7年度の費用便益分析では、「総合水系環境整備事業の事業評価の運用」の一部変更(R3.12)により、過去に完了評価済の箇所は除外して算定。

※2: 基準年における現在価値化前を示す。

※3: 令和2年度の費用便益分析では、「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領の運用について」(H25.11)に従い、事業内容・事業期間・事業費等に変化がないため、平成27年度の事業評価資料を用いた。

# 5. 事業の投資効果

## (4) 費用便益分析(水系全体)

### 水系全体における費用便益比

- ◆総便益(B)
  - ・沿川住民を対象としたCVMアンケートにより支払意思額(WTP)を把握。
  - ・WTPから年便益を求め、評価期間を考慮し、残存価値を付加して総便益を算定。
- ◆総費用(C)
  - ・事業に係る建設費と維持管理費を計上。

分野	河川名	個別箇所名	総費用(C)		総便益(B)		費用便益比 (B/C)		備考
水環境	利根川	I.利根川下流部中水敷整備	—	—	—	—	—	—	完了評価済 (H27)
	江戸川	II.江戸川・坂川水環境整備事業		—		—		—	完了評価済 (H27)
		III.利根運河水環境整備事業		—		—		—	完了評価済 (R2)
自然再生	利根川	IV.利根川下流自然再生	40億円	25億円	1,002億円	102億円	24.7	4.1	継続箇所
	江戸川	V.江戸川自然再生事業		16億円		900億円		57.3	完了評価 (今回)
水辺整備	利根川	VI.佐原広域交流拠点整備	181億円	—	2,660億円	—	14.7	—	完了評価済 (H27)
	江戸川	VII.江戸川水辺整備事業		181億円		2,660億円		14.7	継続箇所
	烏川	VIII.烏川環境整備		—		—		—	完了評価済 (R2)
合 計			222億円 現在価値化前 126億円		3,662億円		16.5 (社会的割引率1%) 21.3 (社会的割引率2%) 19.4		

※令和7年度の費用便益分析では、「総合水系環境整備事業の事業評価の運用」の一部変更(R3.12)により、過去に完了評価済の箇所は除外して算定。

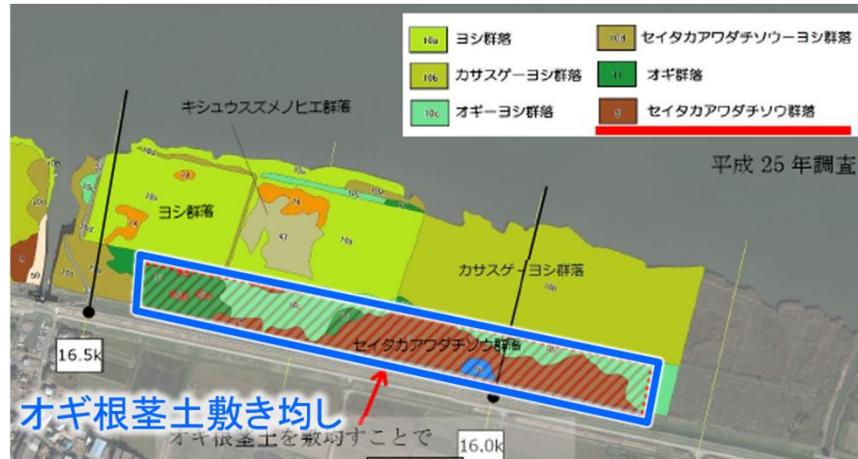
※総費用(C)・総便益(B)は、社会的割引率(4%)及びデフレーターを用いて現在価値化を行い算定。

※表示桁数の関係で計算値が一致しない場合があります。

# 6. コスト縮減等

## (1)利根川下流自然再生

- 自然再生で発生した土砂(ヨシ・オギ茎の混入土)を近傍のセイタカアワダチソウが繁茂しているエリアに敷設することにより、運搬・処分費約2,500万円の縮減を行うとともに外来種対策を兼ねて実施した。
- 施工後はオギ群落に遷移し、新たな外来種の広がりは見られていない。



従来：残土置き場への運搬・処分  
運搬費 (15.6km) : 約3,300万円  
※堤内地の土砂仮置き場に運搬・敷き均し

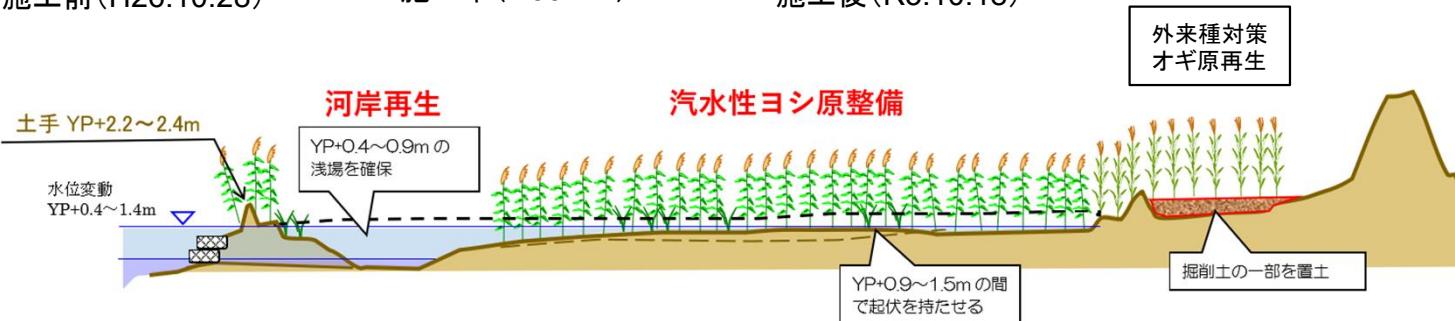
コスト縮減実施後：発生土を外来種対策に活用  
運搬 (1.5km) : 約800万円  
※近隣の外来種繁茂箇所に運搬・敷き均し

コスト縮減効果：約2,500万円



オギが優占し、セイタカアワダチソウは、ほぼ抑制された。

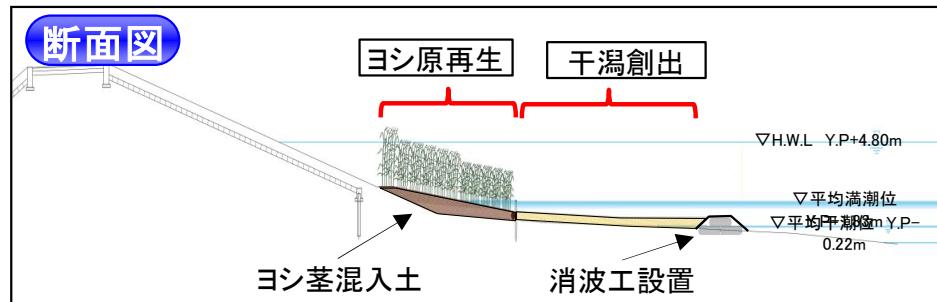
施工前(H26.10.28) 施工中(H30.2.7) 施工後(R3.10.18)



## 6. コスト縮減等

### (2) 江戸川自然再生事業

■干潟の創出を自然の力によることで約440万円の整地費を削減しました。

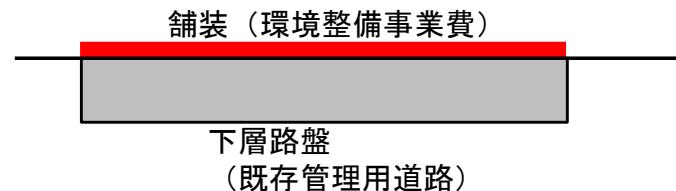


従来：整地費  
(200円/m<sup>2</sup> × 22,000m<sup>2</sup>=約440万円)

コスト縮減実施後：整地費 0円

### (3) 江戸川水辺整備事業

■江戸川散策路整備にあたり、既存の管理用道路を活用することで、約1,000万円の下層路盤整備費を削減しました。



従来：下層路盤整備費  
(4,000円/m<sup>2</sup> × 25,000m<sup>2</sup>=約1,000万円)

コスト縮減実施後：整地費 0円

### (4) その他の取り組み

■地元自治体や市民との協働による取り組みによって、より良い河川環境の維持が図られています。



関係機関との協働による魚道後背地の水路維持管理状況(利根運河)



東京理科大生による魚類遡上調査(利根運河)



市立柏高校生によるアレチウリ除去活動(利根運河)

## 7. 関連自治体等の意見

- ・再評価における関連自治体の意見は下記の通りです。

関連自治体	再評価における意見
茨城県	利根川・江戸川は首都圏に広がる貴重な水辺空間であり、その保全・再生が必要であることから、本事業の継続を希望します。 また、事業実施にあたっては徹底したコスト縮減を図っていただくようお願いいたします。
埼玉県	生物多様性の確保や人々が安全に利用できる良好な水辺空間の形成については、引き続き、コスト縮減に十分留意し、着実に事業を進めていただき、関係機関や地域住民等との調整を図りながら、工期内の整備完了をお願いする。
千葉県	利根川・江戸川沿線に位置する本県にとって、自然環境の保全や再生、良好な水辺空間の確保の観点から、今後も必要な事業であり、事業効果も見込まれることから、本事業の継続を要望します。 なお、事業の実施にあたっては、コスト縮減に配慮するようお願いします。
東京都	都市化が著しい首都圏において、江戸川下流部は、多様な水辺利用が楽しめ、豊かな自然が存在する貴重な空間である。 良好な河川環境の保全・再生に向けて、地元との調整やコスト縮減を十分行いながら、河川環境整備事業を継続されるようお願いする。

# 8. 今後の対応方針（原案）

## （1）事業の必要性に関する視点

### ①事業をめぐる社会情勢等の変化

- ・利根川および江戸川は、流域住民にとって、水道水等の貴重な水源であるとともに、自然環境が残り、多様な水辺利用を楽しめる貴重な空間であり、利根川および江戸川の水質改善、自然環境の保全・再生や、烏川を含め誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる施設整備の必要性はますます高まっています。
- ・本事業を推進することにより、利根川及び江戸川、烏川の持つ水と緑豊かな河川環境への親しみがさらに生まれ、河川空間がより身近なものとなることで、地元自治体や住民からの期待は高まると考えられ、本事業の必要性は変わりなく、事業投資効果も見込まれます。

### ②事業の投資効果

令和7年度評価時	B/C	B（億円）	C（億円）
利根川総合水系環境整備事業 (利根川・江戸川環境整備)	16.5	3,662	222

## （2）事業の進捗の見込みの視点

- ・今後の実施の目途、進捗の見通しについては、特に大きな支障はありません。
- ・今後も事業実施にあたっては、社会情勢等の変化に留意しつつ、運営の主体となる協議会、関係機関や地元関係者等との調整を十分図り、利用計画・維持管理計画の策定など、更なる利用促進に向けて取組みを進めます。

## （3）コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・維持管理については、地元自治体や市民との協働によりコスト縮減に努めます。

## （4）対応方針（原案）

- ・事業継続とする。
- ・本事業は、水質改善、生物の生息・生育環境の保全・創出、水辺や自然とふれあえる水辺空間確保の観点から、事業の必要性が高く、引き続き事業の継続が妥当と考えます。